

<防災通信> No 1 (H22.5.10)

千葉県立千葉西高等学校

◎千葉県を含む南関東地域で、マグニチュード7クラスの地震が、今後30年以内に70%程度の確率で発生する。
(国の地震調査研究推進本部)

◎被害想定新聞 → 右写真

全壊家屋4万棟、焼失2万棟、死者1千人超、
避難者145万人

ある冬の平日の午後6時に、東京湾北部を震源域とする、
マグニチュード7.3の地震が起こったときの東京湾岸
を中心に千葉県で発生する被害を予測したもの。
(平成19年度に実施した「千葉県地震被害想定調査」
の結果に基づいて千葉県総務部消防地震防災課が作成)



地震、その時あなたは大丈夫？

地震や台風などの自然現象は、地球の営みの一つで止めることはできませんが、一人一人が防災のことを意識し、準備することで、災害が起きても被害を少なくすることはできます。

とにかく **命を守ろう！**



学校が所在する磯辺地区は約40年前に東京湾を埋め立て造成された地域です。

1987年の千葉県東方沖地震では、学校周辺でも液状化現象が見られました。学校と地域住民が、この地域の災害の特性を中心に防災を学び、体験活動を通して防災に関する正しい知識や高い意識を身につけましょう。

今年度、本校では「防災教育～命を守ろう～」に取り組みます

平成22年度の主な取組

	学 校 (生徒・教職員)	地 域
5月	○LHR (防災関係) ○アンケート調査	○アンケート調査
7月	○防災講演会 (7/14 予定) ○救急講習会 (AED)	○避難訓練 (7/15 予定)
8月		○防災学習会 (8/4・5 予定)
9月	○防災講話	○9都県市防災訓練 ○白帆祭 (9/11) 救急講習会 (AED)・パネル展示・起震車体験 ○公開 LHR (防災教育) (9/29 予定)
11月		○防災体験談 (1・3年 LHR) (11/17 予定)
12月	○アンケート調査	○アンケート調査 ○1000か所ミニ集会

◇その他 啓発資料等の配布・防災通信の発行・同好会や委員会等の活動

日ごろから災害をイメージする
トレーニングを行い、災害時の
行動をシミュレーションしておく
ことが大切です。

積極的に防災に関する知識や意識を身につけ、
「自助」(自分の命は自分で守る)
「共助」(自分たちのまちは自分たちで守る)
を心がけましょう。

防災豆知識

千葉県は、豊かな自然に恵まれて、温暖な気候のもと、大きな災害の少ない暮らしやすい地域ですが、房総半島南端の花畑は、地震で隆起した海岸段丘でもあります。かつて千葉県でも大きな被害を受けたことがありました。

＜千葉県の主な被害＞

- 地震** ・ 延宝5年（1677年） 延宝地震：死者不明者272名
・ 元禄16年（1703年） 元禄地震：死者不明者6,534名
・ 大正12年9月（1923年） 関東大震災：死者不明者1,342名
・ 昭和62年12月（1987年） 千葉県東方沖地震：死者2名
- 津波** 延宝の大津波・元禄地震津波・関東大震災に伴う津波のほか、昭和35年（1960年）のチリ地震でも被害を受けました。

◎自分たちの住んでいる地域の災害特性を調べよう

災害が起きたとき、地域によってはいろいろな被害が予想されます。

＜津波＞＜がけ崩れ＞＜液状化＞など、自分の住んでいるところがどのような地形・地盤か調べることで災害時の対応を考えることができます。

→確認してみましょう

ちば地震被害想定ホームページ

<http://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/portal/higaisoutei/index.html>

◎過去の災害から学ぼう

1987年の千葉県東方沖地震体験者を対象に行ったアンケート調査によると

①地震発生直後の不安

全体の半数以上に相当する800人以上の人が、「肉親の安否」と回答しています。つづいて、「余震の不安」「火災発生」「ライフラインの被害」となっています。

②地震の教訓

東方沖地震から学んだ教訓として、最も多くの回答があったのは「家族の連絡先・集合場所を決める」でした。そのほか、「非常持ち出し品の準備」「食料や飲料水の備蓄」「家具類の固定」などが多くなっています。

→確認してみましょう

どんな備えが必要でしょうか？

千葉県防災ポータルサイト

http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/a_bousai/index.html

携帯版

http://www.pref.chiba.lg.jp/portal/mobile/bousaimail/gb65_1.html

千葉市総合防災課

<http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/bosai/>

ちばし安全・安心メール

entry@chiba-an.jp

決して他人事ではなく、自分自身の問題として考えることが必要です。

＜正常化の偏見＞

人は、何らかの被害が予想される状況でも「自分は大丈夫」と思ってしまいがちで、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう特性がある。目の前に危険が迫ってくるまで、あるいは迫っているのに、その危険を認めようとしない人間の一般的な心理傾向を災害心理学では「正常化の偏見（normalcy bias）」と表現している。（群馬大学工学部教授の片田敏孝氏）

参考資料：【防災誌】関東大地震（千葉県総務部消防地震防災課）

ちば・ふるさとの学び（千葉県教育委員会）

「備えあれば憂いなし」（千葉県教育委員会）

※西高の図書館にあります。

千葉県及び教育委員会のホームページでも確認できます。



防災教育チャレンジプラン